

# ステキ活動のご紹介



その1

しづたねの専属ヒーローは「シブレンジャー」ですが、聖路加国際病院にもめちゃくちゃかっこいいヒーローがいるのです☆数少ないレンジャー仲間の「きょうだいレンジャー」さんのご活動について書いていただきました！

こんにちは。私たちは、東京にある聖路加国際病院で、きょうだい支援をしている「きょうだいレンジャー」です。2012年にできた、まだまだお尻の青いレンジャーたちです。  
今回、私たちの大先輩である、きょうだい支援のパイオニアしづたねさんから、10周年の記念誌に載せてくださるとのことで、恐縮ながらも素直に喜び、こんな青二才をすぐ仲間に入れてくださる寛大さに、また感動してしまうのです。

では、せっかくですので、私たちの行っている活動をご紹介します。  
きょうだいレンジャーは医師、看護師、保育士、チャイルド・ライフ・スペシャリスト(CLS)、医療社会福祉士等、多職種で構成された支援チームです。最近では他部署スタッフとして、薬剤師や看護学生ボランティアも加わり、院内での広がりを見せています。  
活動のコンセプトは、  
①きょうだいを主役として  
②チームの一員として  
③仲間とのつながり を3つの柱にしています。  
具体的な内容としては、入院時にきょうだい支援チームの紹介、きょうだいの情報収集、宣伝活動(お知らせバッジ、掲示、ホームページ)、月に一回のランチオンミーティング、きょうだいイベントになります。

きょうだいイベントは、きょうだいのために開催する特別なイベントで、レンジャーときょうだいが直接会って話せる貴重な機会であり、活動の要になっています。病院の裏側を探検するミニイベントや、医療体験や病棟遊びを半日かけて行う大きなイベントがあります。医療体験では、車いすに乗ったり、器具に触ったり、針なしの点滴をつけて遊んだりします。患児の疑似体験をすることで、楽しさ、不自由さだけでなく、自



きょうだいレンジャーさん！ポーズもきまっていますよ

分もチームの一員であることを感じてもらえるよう工夫しています。病棟では、家族みんなで病院食を試食したり、患児と一緒に工作遊びをしたり、病棟内ツアーを行い、患児が日ごろどのような環境で過ごしているのかを見て回ります。ツアー終了時、きょうだいのプレゼントであるレンジャーバッジをもらい、イベント終了になります。

イベントはまだ課題や改善点も多くあります。加えて、毎日の仕事とは別の時間に、企画、立案、他部署への協力依頼をし、スタッフを確保…と、なかなか大変なこともあります。でも、きょうだいの楽しそうな顔や、何より患児に会えた瞬間、家族がそろそろ瞬間の幸せそうな様子は、見ていて本当に感動的で、そんな時間を共有できる喜びがあります。また、イベントを繰り返すうちに、家族からのきょうだい情報が多く聞かれるようになったり、医療スタッフの間でもきょうだいの話題が増えたりと、きょうだいへの関心は驚くほど高くなりました。たかだか1年半でも確かな手ごたえを感じることができ、レンジャーたちも日ごろの苦労は何のその…さらにメラメラときょうだいへの愛が燃えあがるのでした…でも、燃えすぎには注意。熱が入りすぎて、さっさと燃え尽きてしまつては意味がありません。小さくメラメラ、細く長く、家で頑張るきょうだいたちを照らしていきたいと思っています。

しづたねさんの種まきから10年を経て、今、小児医療のきょうだい支援はひそかなブームです。この波に乗って、誰でも、どこの施設でもきょうだい支援ができます。と証明していくことは、私たちレンジャーの使命です。

東京築地からの、新鮮なきょうだい支援情報、今後もお楽しみに～

きょうだいレンジャーバッジはきょうだいさんの味方の目印☆子どもたちでもすぐわかるのです。



なんとシブレッドも、友情の証にレンジャーバッジいただきました！いつも自慢しています。



しづたねの人気の謎キャラ「シブブラック」は、実は名古屋大学医学部附属病院(名大病院)で「きょうだいの会」を開いています☆年に2回(夏・春)、たこ焼きあり、病院クイズありの、楽しそうな会について教えてもらいました。



今から10数年前、当時私は名大病院で務めていました。そして、その頃に出会ったご家族と時間を共にさせていただく中で、私はきょうだいのみなさんのことがとても気になるようになりました。そこで、入院に付き添われていた親御さんたちにきょうだいのことについて伺ってみると、入院や病気をきっかけに、きょうだいの中にはいろんな思いをもちながら毎日の生活を送っている子がいることをお聞かせいただきました。以来私は、きょうだいのみなさんはどんな生活の中でどんなことを思い感じているのだろう、僕ら看護師や医療者、そして病院のことをどんなふうに感じているのだろう、といったことを考えるようになりました。

その後、進学のため大阪に引っ越し、いろいろと調べている中で『しづたね』の存在を知り、しかも、「しづたね…大阪やん!」ということで勇気を出し活動に参加させていただくようになりました。出会った当初から私は『しづたね』のなんとも言えないあのやさしいあたたかい感じを体感する中で、名古屋のみなさんもこんな時間を過ごすことができたらなあ、と思っていました。

すると好機が巡り、私は再び名古屋に戻ることにになりました。好機は重なり、名大病院できょうだいが気になるオーラをかもし出しながら過ごしていた所、これまで同じようにきょうだいのことを思っていたチャイルド・ライフ・スペシャリストと意気投合、これはチャンス!と家族、看護師、保育士、医師、学生、と病棟や大学にいるみなさんの力をお借りして、2010年7月に初「きょうだいの会」開催に至ることができました。

「きょうだいの会」は週末のお昼の時間帯をはさみ、小児内科・小児外科両病棟の間にある食堂で開催しています。みんなでたこ焼きを作って食べたり、ゲームや工作、病院クイズをしたりして過ごしています。開催に際して私たちが大切にしていることは、病院できょうだいが主役になれること、「あなたが大切」というメッセージが伝わること、自分だけではなく感じてもらえること、病院を身近に感じてもらえることなどです。きょうだいのみなさんは、最初はどんな自分でいられる場なのか、期待や不安などそれぞれ緊張の面持ちですが、時間が進むほどに表情が弛み笑顔や落ち着いた様子、真剣な様子、そして実際に「きてよかった」、「とってもたのしかった」、「またきょうだいのかいをやりたい」と言ってくれたり、それぞれに会を楽しんでくれている様子です。勤務中に顔を出す看護師、医師など白衣の大人の姿にドキドキしながら、でも嬉しそうにたこ焼きを差し入れたり一緒に食べるきょうだいの様子も、病院で開催している特徴を感じ、毎回こういった特徴をもっと生かして行きたいと思う次第です。

病院クイズでは、入院中の子に関わっている職員が写真で登場したり、入ることができない病棟の中の様子を写真で紹介したりしています。クイズは4択で、会の始めに自分で作った色とりどりの番号札を持ちながら、中には身を乗り出して問題の写真を確認する子や「びょう

いんのことをすることができてよかった」と感想を届けてくれたりと、クイズもそれぞれに楽しんでくれている様子です。大人たちにとっては当たり前の病棟内のことも、きょうだいにとってははじめて知ることが多いことも実感し、もつきょうだいに病院のことを紹介していきたいと考えている次第です。会は入院中の子ども体調が良ければ、そしてご両親にも希望にあわせて参加いただいています。ご両親から「一緒に楽しい時間を過ごすことができました」と本来は当たり前だけれどなかなか叶わない状況にある、家族と一緒に過ごすことなどに対する思いをいただいたりしています。



身を乗り出して問題の写真を確認し、クイズに挑戦してくれているきょうだいたち

「きょうだいの会」を通して、きょうだいどうしだけでなく、きょうだいときょうだいを思う大人とご出会い、お互いに時間を共有した事実と感覚を得ることがその後の関係の深まりや構築につながっていくことを感じています。また、きょうだいのことを知れば知るほど、それぞれの家族がどうありたいかということへの支援者側の理解の助けになることを感じます。病院の中でこういった会を開催していくことが、医療の中にきょうだいを思う気持ちが広がって深まっていくことにつながっていくことも願っています。会の内容などよりよいものにしてきたいと課題もありますが、これからもみんなで少しでもいい時間が共有できるよう、活動を継続していきたいと考えています。

昨年より私、今度は大阪に戻ってきています。大阪で『しづたね』の空気を吸い、そこで時かれる種を拾いながら、定期的に名古屋に運べる!というなんとラッキーな境遇にあります。存分にこの好機を生かしていければと思っています。



『しづたね』10周年おめでとうございます。今まで本当にどうもありがとうございます。これからも『しづたね』の種が蒔かれ続け、色々なところで芽が出、きょうだいのみなさんにやさしいあたたかいものになっていくことを願っています。

敵か味方か…(名古屋か大阪か…と、いろいろどっちつかずの…いや、いろいろどっちも大切な…)シブブラック! 大阪大学大学院 医学系研究科保健学専攻(小児看護学)講師 新家一輝